HUB-IBARAKI ART PROJECT 2018-2019　　開催のご案内

このたび、茨木市とアートを活用したまちづくり推進事業『HUB-IBARAKI ART』実行委員会は、
3月29日（金）より9月29日（日）までの6か月の会期にて「HUB-IBARAKI ART PROJECT 2018-2019」を開催いたします。

期間中は、13のプログラムを断続的に実施して、まちなかで繰り広げる「アートプロジェクト」として、新たなアートの体験のかたちを提案します。
つきましては、本プロジェクトの周知にご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

【開催概要】

プロジェクト実施・開催期間｜2019年3月29日（金）ー9月29日（日）
会場｜茨木市内各所（プログラムによって会場が異なります）

作家｜冬木 遼太郎
主な発表作品｜《突然の風景（Sudden View）》
作品公開発表｜2019年5月26日（日）　茨木市中央公園北グラウンドにて

テーマ｜アートと茨木のひと・まちづくり
ー「公共／パブリック」を考察する、6か月間のアートプロジェクト
プロジェクト内容｜作品制作・発表、トーク、ワークショップ、市民交流の取り組みなど、
13種類のプログラムを実施

チーフディレクター｜山中 俊広（インディペンデント・キュレーター）
ディレクター｜山本 正大（少年企画）
事務局｜茨木市文化振興課

主催｜茨木市、アートを活用したまちづくり推進事業『HUB-IBARAKI ART』実行委員会
公式サイト｜https://www.hub-ibaraki-art.com/

冬木 遼太郎《突然の風景》のためのイメージ模型

本件に関するお問い合わせ、取材依頼：茨木市市民文化部文化振興課　［担当：川嵜（かわさき）］
Tel：072-620-1810　E-mail：bunkashinkou@city.ibaraki.lg.jp
567-8505　大阪府茨木市駅前3丁目8-13　茨木市役所南館8階

本プロジェクトの見どころ・特徴

――― リアルタイムに鑑賞する、たった1日のみの「作品」

今年のHUB-IBARAKIのハイライトとなる冬木遼太郎の作品《突然の風景》は、6か月間のうちたった1日しかリアルタイムに鑑賞できません。5月26日（日）の作品公開発表に向け、プロジェクトの周知活動、作品発表の特殊な形態についての説明、市民との対話の機会などを、茨木市内で積極的に作っていきます。
近年のまちなかでのアートイベントの多くは、作品展示・鑑賞に重きが置かれている中、今年のHUB-IBARAKIでは、作品やアートを介して作られる場や状況を大切に取り組みます。

――― 「アート／作品」が茨木のまちに作用し続ける6か月間

今年のHUB-IBARAKIでは、作品が出来上がるプロセスを共有する機会と、茨木のまちとアートの関係を様々な視点で考察するための取り組みを13のプログラムとして構成し、大半を公開して実施します。さらに、全てのプログラムの実施レポートは、公式サイトとアーカイブボードで随時公開し、その場に立ち合えない人々とも速やかに現場の動きを情報共有することに努めていきます。
アートの行為が茨木の日常にどのように関与し、影響を及ぼしていくかをその都度確認していく、「アートによる社会実験」として位置付ける6か月間です。

――― 「公共（パブリック）」を考える

冬木遼太郎が制作する《突然の風景》は、公共の場でのコミュニケーションを主題に、公共の場で発表するために計画した作品です。2011年の東日本大震災、そして昨年茨木市内も見舞われた2つの自然災害を機に、コミュニティーや他者とのコミュニケーションのあり方を見直す機運が高まりつつあります。また、今年のHUB-IBARAKIのプログラムも、アートプロジェクトという公共の場で実施するという前提に向き合い、改めてこのプロジェクトは誰に向けて何を伝えるべきなのかと、本来の意義や目的を再考して構成しています。
冬木とHUB-IBARAKIの双方が提示する「公共」にも、それぞれに考え方の差異があります。むしろ、各々が様々な考えを巡らせるために、一つの答えに留まらない状況を保つことが大切であり、その均衡を作ることができるのがいまのアートの力だと私たちは考えます。

『HUB-IBARAKI ART PROJECT』は、茨木市のまちづくりのためのアートの取り組みです。その前提の中で、アートとまちがよりダイナミックに相互作用を与えあう関係になり、できる限り多くの市民とその場と時間を共有し、多様な価値観を包み込むことのできる6か月間になれば幸いです。

「HUB-IBARAKI ART PROJECT」について

「HUB-IBARAKI ART PROJECT」は今年で3年目の実施となります。前身の「HUB-IBARAKI ART COMPETITION」と「茨木市彫刻設置事業」も含めると、まちと現代アートを結びつける茨木市が主体となった取り組みとして、約10年間継続して実施してきました。

現在の「HUB-IBARAKI ART PROJECT」は、「継続的なアート事業によるまちづくり」 を目的に、公募で選出した1名の作家と、作品発表と各種イベントを6か月にわたって実施するアートプロジェクトです。
茨木市に暮らす人々が、アート作品・アーティストとの交流を通して、アートの本質的な魅力である「表現の豊かさ／美しさ」「探求心」に触れて、その体験をそれぞれの日常の中へ還元できる機会を創出します。作品単体で完結することなく、アーティスト自身も作品を介して積極的にまちに関与することによって、まちの環境を継続的に育てていく作品・展示を実施してきました。

「HUB-IBARAKI ART PROJECT 2017-2018」
発表作品
稲垣 元則 《The Light》
（サワラギヤ）

「HUB-IBARAKI ART PROJECT 2016-2017」
発表作品
中島 麦 《WM》
（茨木市立生涯学習センターきらめき 3階）

発表作品《突然の風景》について

今年のHUB-IBARAKIの主軸となる冬木遼太郎の作品《突然の風景（Sudden View）》は、屋外の公共空間で短時間発表する、車と音を使ったインスタレーション作品という位置づけです。今年のHUB-IBARAKIのキーワードである「公共／パブリック」をコンセプトの中心に、公共の場での人のコミュニケーションのあり方について、作品発表の環境や動作のシステムを介して、各々が思いを巡らせる機会となることを狙いにしています。

昨年、茨木市は地震と台風、2つの自然災害に見舞われました。昨年の地震からまもなく1年を迎えるこの時期に、この作品を発表することも、作品の鑑賞体験に関わる1つの大切な要素でもあります。

メインプログラムは、茨木市中央公園北グラウンドで5月26日（日）の1日のみ実施する作品の公開発表と、直前のリハーサル、HUB-IBARAKIの開催期間中常時ご覧いただける大型の写真作品の展示、7月中旬に予定をしているアーカイブ映像公開の4種類のプログラムで構成します。これらは全て、《突然の風景》の制作のプロセスを辿るものであり、また《突然の風景》と地続きの「作品」とも言えるでしょう。

［制作協力］（2019年3月29日現在）
技術制作｜米子 匡司（音楽家）
編曲｜横山 裕一
アーカイブ映像制作｜ヤマダユウジ（映像クリエーター）

———本コンペティションの存在を知って、最初に浮かんだのは「市」という単位が個々の人たちにとってどういうものであるか、ということだった。特定の地域の中で、同じ市民として生きていくとはどういうことなのか。

まず、なぜその市を住む場として選んだのか？住みやすさ、生まれた時から親がそこに住んでいたから、仕事上の理由、なんとなく、etc。おそらく理由は様々である。そういった様々な動機でそこにいる人たちが、たまたま茨木市という単位で一緒に暮らしている。愛着がある人もいれば、ネガティブな印象を持っている人だっているだろう。

そこで自分なら何をするかを考えた時、他者と関わることが絶対的に良いことであるとか、交流自体を強要するのではなく、自分と違う考えのとなりの人を認める行為から始まるようなことがしたいと思った。

冬木 遼太郎

冬木 遼太郎　プロフィール

1984年富山県生まれ。
2008年京都造形芸術大学情報デザイン学科先端アートコース卒業、2010年京都市立芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了後、京都と大阪を拠点に活動している。

https://ryotarofuyuki.tumblr.com/

主な個展に「PRESIDENT」（ARTZONE・京都、2013年）、「Ryotaro Fuyuki solo exhibition」（サイギャラリー・大阪、2016年）、「A NEGATIVE EVAGINATE」(大阪府立江之子島文化芸術創造センター、2017年)、「内的相互」（ギャラリー崇仁・京都、2019年）。
主なグループ展に「Making Sense Out of Nonsense」（京都芸術センター、2014年）、「Winter 2017 Residency Exhibition」（NARS Foundation・ニューヨーク、2018年)、「どこでもゲンビ2018」（広島市現代美術館、2018年）。
2017年、吉野石膏美術振興財団在外研修員としてニューヨークに滞在。

《感情的分岐点》2017年
大阪府立江之子島文化芸術創造センター
「A NEGATIVE EVAGINATE」発表作品

《思想付き通路》2018年
広島市現代美術館「どこでもゲンビ2018」発表作品

メインプログラムの構成

□　《シンドローム》 作品展示
2019年3月29日（金）ー9月29日（日）9:00ー20:00　（期間中無休）
会場｜ソシオ-1 茨木ビル 1階 ショーウィンドウ　（永代町5-306 ソシオ-1）

冬木による大型の写真作品《シンドローム（Syndrome）》の展示を、プロジェクト実施・開催期間の6か月間、阪急茨木市駅西側に隣接する商業ビル、ソシオ-1の1階ショーウィンドウで展開します。5月26日（日）に発表する《突然の風景》と対称的な「公共」へのまなざしを提示します。

□　《突然の風景》 公開リハーサル
2019年5月11日（土）10:00ー16:00（予定）
会場｜福井運動広場グラウンド　（西福井3丁目30-45）

■　**《突然の風景》 発表**
2019年5月26日（日）13:00、15:00、17:00の3回実施
（発表時間各10分程度、各回同じ内容を発表）
会場｜**茨木市中央公園 北グラウンド**　（駅前4丁目8）

□　《突然の風景》 アーカイブ映像公開
2019年7月中旬（予定）
公開場所｜HUB-IBARAKI公式サイト
https://www.hub-ibaraki-art.com/

［上］冬木遼太郎　《突然の風景》のためのイメージ模型
［左］茨木市中央公園北グラウンド（《突然の風景》発表会場）
［右］ソシオ-1 ビル（《シンドローム》展示会場）

※ 参加費は全て無料。特別な記載のないものは、参加申込不要です。
※ 当方の都合により、開催日時・会場が変更になる場合があります。その際は公式サイト・SNSにて速やかにお知らせします。
※ プログラム実施後のレポートは、公式サイトとアーカイブボード（ソシオ-1 2階 ショーウィンドウ）に随時掲載します。

関連プログラムの構成について

□　HUB-IBARAKI インフォメーション／アーカイブボード

2019年3月29日（金）ー9月29日（日）　9:00ー20:00　（期間中無休）
会場｜ソシオ-1 茨木ビル 2階 ショーウィンドウ　（永代町5-306 ソシオ-1）

プロジェクト実施・開催期間の6か月間、阪急茨木市駅西側に隣接する商業ビル、ソシオ-1の2階ショーウィンドウで展開します。今年のプロジェクトの概要と各プログラムの開催案内の掲示と共に、プログラム実施後のレポートを期間中更新する、リアルタイムでのアーカイブ情報も同時にご覧いただけます。

□　バトンタッチトーク　稲垣 元則×冬木 遼太郎

2019年4月13日（土）　15:00ー17:00
会場｜サワラギヤ　（駅前4丁目2-31）　ゲスト｜稲垣 元則（美術家）

本プロジェクト恒例のオープニング企画として、昨年の発表作家の稲垣元則氏をお招きし、今年の発表作家の冬木と対談をおこないます。お互いの作家としての立場で、プロジェクトでの発表作品の話を起点に、昨年からの変化と今年のプロジェクトへの展望と期待を捉えていく機会とします。

昨年のバトンタッチトークの様子

□　《突然の風景》 発表のための市内キャラバン

2019年4月中旬ー5月中旬　（期間中に複数回実施）
会場｜茨木市内各所

5月26日（日）の《突然の風景》発表に向けて、広報・告知、プロジェクト全体や作品内容に関する説明、意見交換を、様々な層の市民を対象に、市内各所に出向いて実施するプログラムです（一部非公開）。
作品サンプルの試聴、回覧板、近隣住民への招待状配布、特定の市民との対談など、多様な手法での市民との交流を通じて、今年のプロジェクト全体と《突然の風景》発表への市民の理解を草の根的に深め、協力者を募ることを狙いとします。

□　冬木 遼太郎　特別授業

2019年4月　（期間中に1回実施）

初めての官学連携の試みとして、冬木による特別授業を市内の学校にて実施する予定です（非公開）。近年のアートの表現の動向と共に、発表作品《突然の風景》を説明するための授業内容とし、公開発表について若い人たちと意見交換をおこないます。また、今後の教育機関とHUB-IBARAKIとの関係強化にもつなげていくことを目指します。

※ 参加費は全て無料。特別な記載のないものは、参加申込不要です。
※ 当方の都合により、開催日時・会場が変更になる場合があります。その際は公式サイト・SNSにて速やかにお知らせします。
※ プログラム実施後のレポートは、公式サイトとアーカイブボード（ソシオ-1 2階 ショーウィンドウ）に随時掲載します。

関連プログラムの構成について

□　《突然の風景》 アフターワークショップ＆トーク

2019年6月29日（土）　時間未定（後日発表）
会場｜リノベのいばらきDIY工房　（元町3-39）
トークゲスト｜米子 匡司（音楽家）
参加申込｜茨木市市民文化部文化振興課内 『HUB-IBARAKI ART』実行委員会

《突然の風景》のコンセプトや素材を基にした、冬木遼太郎によるワークショップを実施します。［詳細な内容は後日発表］
その後、《突然の風景》の技術制作を担当した米子匡司氏と冬木の対談をおこない、作品の制作から発表までのプロセスを制作当事者の立場から振り返り、今回の作品としての考え方、位置づけについて議論を深めます。

□　茨木まち歩きアートツアー

2019年7月20日（土）　10:00－12:00
集合場所｜未定（後日発表）
参加定員｜20名
参加申込｜茨木市市民文化部文化振興課内 『HUB-IBARAKI ART』実行委員会

茨木市内に点在するパブリックアート作品を巡りながら、茨木のまちの風景も合わせて楽しむ、まち歩きを実施します。以前に本プロジェクトで発表された作品以外にも、様々な時代に多くの作品をパブリックな場所に設置してきた、茨木市の芸術文化活動の変遷を垣間見ることができます。［当日の集合場所やルートなどの詳細は後日発表］

□　《突然の風景》 アーカイブ映像上映会＆トーク

2019年7月20日（土）　14:00－15:00
会場｜茨木市男女共生センターローズWAM　地下1階ローズホール（元町4-7）

7月中に完成を予定している《突然の風景》のアーカイブ映像を、多くの方々と一緒にスクリーンで鑑賞します。上映後、関係者をゲストにお招きしてトークセッションをおこなう予定です。

□　茨木芸術座談会2019

2019年8月24日（土）　17:00－19:30
会場｜茨木市役所南館8階　市民ふれあいサロン　（駅前3丁目8-13）

昨年のプロジェクトで初めて実施した、茨木市内で芸術文化活動に関わっている方々との対話・交流を目的とした座談会を、今年も実施します。参加者それぞれが茨木市の芸術・文化について意見交換をおこない、多様な価値観や考え方を共有する機会とします。市内市外、関連活動従事の有無に関わらず、関心のある方はどなたでもご参加いただけます。

□　クロージングトーク
「HUB-IBARAKIと地域型アートプロジェクトのその先に」
雨森 信×冬木 遼太郎×山中 俊広

2019年9月29日（日）　15:00－17:00
会場｜未定（後日発表）
ゲスト｜雨森 信（Breaker Projectディレクター）

今年の本プロジェクトの作家公募の審査員であり、ご自身も大阪市内でアートプロジェクトに長年携わっている雨森信氏をお招きして、この半年間のプロジェクトの動きを振り返ります。そして今後のHUB-IBARAKIの展望と地域型アートプロジェクトのあり方について、参加者と共に議論を深める機会とします。

［左］一昨年の作品鑑賞ツアーの様子
［右］昨年の茨木芸術座談会の様子

※ 参加費は全て無料。特別な記載のないものは、参加申込不要です。
※ 当方の都合により、開催日時・会場が変更になる場合があります。その際は公式サイト・SNSにて速やかにお知らせします。
※ プログラム実施後のレポートは、公式サイトとアーカイブボード（ソシオ-1 2階 ショーウィンドウ）に随時掲載します。

プロジェクトスケジュール

※ 参加費は全て無料。特別な記載のないものは、参加申込不要です。
※ 当方の都合により、開催日時・会場が変更になる場合があります。その際は公式サイト・SNS にて速やかにお知らせします。
※ プログラム実施後のレポートは、公式サイトとアーカイブボード（ソシオ -1 2 階 ショーウィンドウ）に随時掲載します。

会場マップ

※JR茨木駅と阪急茨木市駅の間は、徒歩で約20分です